

6. 計画検討の進め方

(1) 計画検討全般

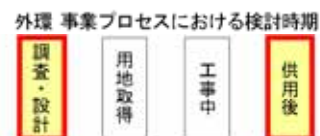
- ① 外環や青梅街道インターチェンジの整備効果が十分発揮されるのかとの懸念
- ② 最新のデータ等を踏まえた交通量推計による計画となっているのかとの懸念

○これまでに頂いた意見

- 地域への影響などきちんとした交通量の予測を行うことなしに青梅街道インターチェンジの計画を推進するのは心配だ。地域の交通量の変化の予測をしてほしい。
- 青梅街道インターチェンジ周辺の通過交通は増えないと国は言っているが疑念がある。その根拠を市民が理解し納得できる資料で示してほしい。
- 外環本線に関しては古いデータではなく、最新のデータを基に、最新技術による計画案を示してほしい。

(国)

- 外環は、沿線地域をはじめ首都圏全体として、交通渋滞や環境の改善、経済効果、都市再生に果たす役割等から、その必要性は高いと考えています。
- 今後、平成17年の道路交通センサスや新たな人口推計等の最新データをもとにした新たな交通需要推計による整備効果の検討や外環開通後の効果の調査結果などについて、丁寧かつ正確な情報提供を実施します。

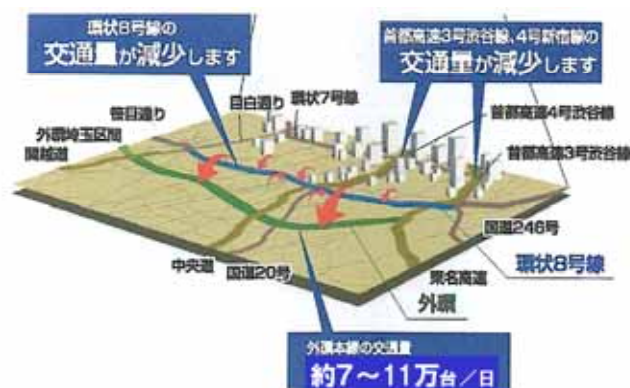


参考:整備効果

外環の整備により、様々な効果が期待できます。なお、平成17年度の道路交通センサスや新たな人口推計等の最新データをもとにした新たな交通需要推計による整備効果については、とりまとまり次第公表します。

1. 時間の短縮・渋滞緩和

外環を含めた幹線道路ネットワーク整備が概ね完了することで、都心に用いない車がバイパスされ、都心に集中していた交通が分散されます。特に環状8号線や首都高速3号渋谷線、4号新宿線等を利用していた通過交通が外環に転換することで、これらの道路の渋滞緩和が期待されます。また、所要時間の大幅な短縮が見込まれ、目的地までのスムーズな移動が可能になります。



首都高速3号渋谷線、4号新宿線の交通量
全体の交通量 → 約2割減

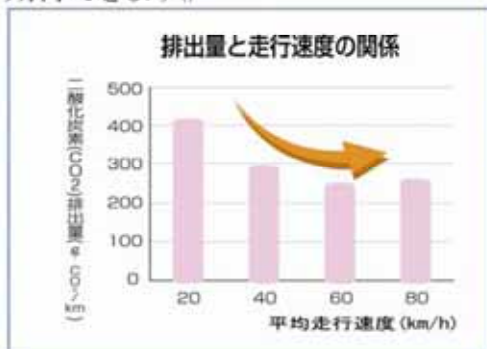
環状8号線の交通量
全体の交通量 → 約1~2割減
大型車の交通量 → 約3割減
通過交通 → 約8割減



2. 環境の改善

現在の都心部は慢性的に渋滞しているため、自動車が低速で走行していることから、より多くの排出ガスが発生していると考えられます。

外環の整備により、都心に集中していた交通が分散され、通過交通が減少し、環状8号線や首都高速3号渋谷線、4号新宿線等の慢性的な渋滞の緩和が見込まれています。また、首都圏の交通の流れがスムーズになり、走行速度が向上するため、排出ガスの大幅な削減が期待できます。



(資料:平成17年度推計値を基に算出)

浮遊粒子状物質 (SPM) 1都3県(東京、神奈川県、埼玉、千葉)の浮遊粒子状物質排出量が
約15~20t/年削減
約15~20万本のペットボトル・500mlに相当

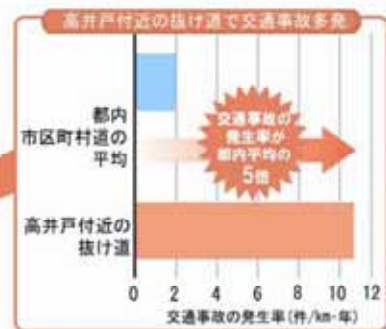
窒素酸化物 (NOx) 1都3県(東京、神奈川県、埼玉、千葉)の窒素酸化物排出量が
約300~400t/年削減
約130~180万台のトラックに相当※
※東京都を走行する大型車に換算

二酸化炭素 (CO₂) 1都3県(東京、神奈川県、埼玉、千葉)の二酸化炭素排出量が
約20~30万t/年削減
沿線7区市(約200km²)の1~1.5倍の植林に相当
※練馬区・杉並区・武蔵野市・三鷹市・国分市・狛江市・世田谷区

3. 生活道路の安全性の向上

都心の渋滞を避けるため、抜け道に通過交通が流入し安全性が低下しています。例えば、環状8号線に並行する生活道路では、交通事故の発生率が都内平均の5倍になっています。

外環が整備されると、生活道路では通り抜け自動車が減少し、安全性の向上が期待できます。



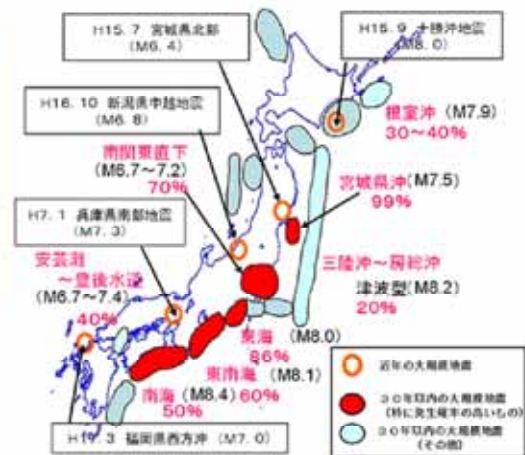
資料：首都圏第3次渋滞対策プログラム
世田谷区資料 杉並区資料
交通事故統計年報(平成9,12年度版)
道路統計年報(1998年,2001年)



杉並区富士見ヶ丘駅付近

4. リダンダンシーの確保

外環の整備により、首都圏直下地震等の大規模地震など災害発生時の避難や救助、その後の復旧活動において、安定した交通確保が可能となります。



最近の大規模地震と、今後30年以内の発生が予想される大規模地震

(2) 意見反映

① 地域課題検討会での意見が計画に反映されないのではないかと懸念
 ② 今後も地域の住民の意見を聴き、具体的な検討を行うことへの期待

○これまでに頂いた意見

- 国・都と住民との回路(対話によるコミュニケーションの場)がなくなると住民は困るので、この地域検討会は継続してほしい。
- 情報は住民のものであり、外環整備に関わるものも必要なものはすべて情報公開されるべきである。

(国)

➤ 地域課題検討会をはじめ、地域のみなさまから頂いたご意見を踏まえ、「対応の方針(素案)」をとりまとめました。今後は、詳細な検討の各段階で、引き続きPIの手法を取り入れ、地域のみなさまの意見を聴きながら、具体的な検討を実施していきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----

➤ 事業の概要や用地補償、工事の内容などについて、各段階で地域の方を対象とした説明会を実施します。また、地域のみなさまの意見を十分に聴くとともに、必要に応じて有識者の意見も聴きながら、具体的な検討を実施していきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----

(3) 情報の提供

① 地域住民への十分な情報提供への期待

○これまでに頂いた意見

- 市民は調査・計画・工事・管理のすべての段階でチェック機能として参加する必要がある。そのためにも十分な情報を提供してほしい。

(国、都)

➤ 地域のみなさまに検討状況や事業のスケジュールなどの具体的な情報をわかりやすく、できる限り速やかにお知らせします。

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----

➤ 今後、国と東京都は杉並区と協力し、地域の状況に即した課題の具体的な対策を検討していくにあたり、より一層、地域のみなさまへわかりやすく丁寧に説明するとともに、類似事業の事例などの見学を行うなど、情報が十分伝わるよう努めていきます。

外環 事業プロセスにおける検討時期

調査・設計	用地取得	工事中	供用後
-------	------	-----	-----